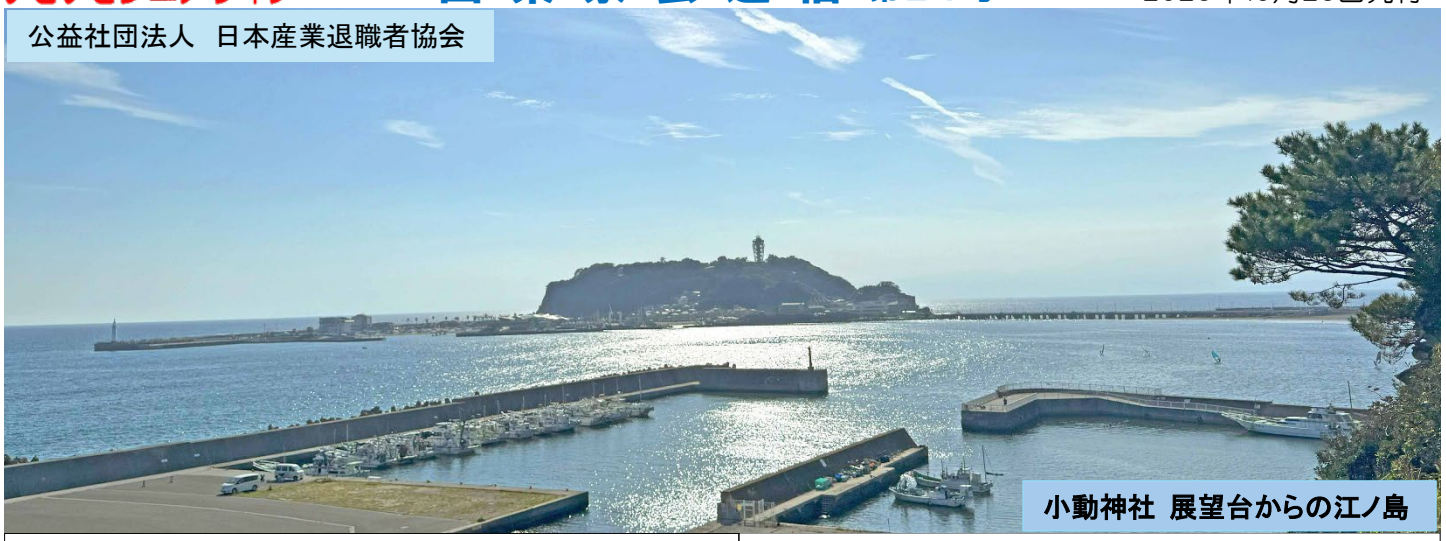
いきいきシニアライフ　西 東 京 会 通 信 第２１号　2025年10月25日発行

公益社団法人　日本産業退職者協会



小動神社 展望台からの江ノ島

『ご挨拶』

代表幹事　恒成憲一

皆様は永い人生の中で、お立場上誰かの為に骨を折られたご経験は数多いと思います。私にはその様な経験はありませんが、最近それと近いことがありました。４ 月の初め夕刻、新宿思い出横丁界隈を少しお酒を認めて（決してふらついてはおりません）気持ちよく歩いておりましたら、突然目の前の電柱が私に激突してまいりました。おでこをしこたまぶつけ、たんこぶを作る次第に。よく漫画で頭を打つと目の前に星が出る描写がありますが、正にそれです。面白いもので、そういう星の出る状態でも激突の瞬間、明日の麻雀どうしよう、来週の北海道混浴温泉旅行どうしよう、飲み会に欠席の連絡をしなければ等々つまらないことばかりが頭を駆け巡ります。即救急車で運ばれ救急病院にて頭のレントゲン、幸い頭には異常（もともと異常？）はありませんでしたが、何と左足の半月板が割れておりました。これも後日レントゲンを見ると、半月板が綺麗に上下にパカッと二分されておりました。と言うことで、私も人のためではなく、自分のために骨を折りました。皆さんも他人ごととは思わず、

千鳥足には十分ご注意してください。

この年齢、骨はなかなか治りません。

「千鳥足、折って気が付く半月板」お粗末・・

「食べ歩き　下町・もんじゃ焼き」

中村英明

好天の５月 14 日、京葉会と合同開催で 20 名がゴールのもんじゃ焼きを目指して 11 時に築地本願寺に集合しました。まずは本願寺を参拝、勝鬨橋を渡り隅田川沿いを佃大橋まで散策。佃島に到着し暫しの休憩時間に佃煮発祥の店でのお買い物、本物はなかなか良いお値段。その後石川島燈台跡、大阪佃から移り住んだ方達の心の拠り所住吉神社、古い住宅の隙間のような路地に突然現れる異世界の天台地蔵尊など派手さはないけれど興味深いポイントが多数点在。スタート地点の見所の勝鬨橋資料館が休館で時間が余る心配しておりましたが、結果的にはゆったりとして丁度良い行程でした。おなかを空かしながら、月島もんじゃストリートを抜け昼食会場の店に到着。２階を貸切ってもんじゃ焼き・お好み焼きを堪能。本場のもんじゃ焼きはさすがにうまいし値段もリーズナブル、参加された皆さんも大いに盛り上がり満足された半日となりました。

西東京会主催カラオケ会開催します！！

どなたでも、お気軽に参加できますので、ご希望の方は下記事務局又は世話人会メンバーにご連絡ください。

開催日：11 月 29 日（土）

場　所：スナック「アンコール」三鷹市下連雀 9-2-11

表紙の写真解説

西村　修

江ノ電「腰越」の先にある小動岬には海の見える神社がある。「枯れてしまって今はない松が、風が無いのに美しく揺れる姿に感動した」ことから、命名創建された小動（こゆるぎ）神社です。小動神社は入口に鬼子母神が祭られ、境内に大きな神輿がいくつも納められており、祭神として古事記などで実在したらしい伝説の英雄「日本武尊」、八岐大蛇を退治したと言われる「須佐之男命」等が祭られ、境内社として「海（わだつみ）神社」、「稲荷社」、「金刀比羅宮」、「第六天社」があります。境内の先の展望台からすぐ下に腰越漁港があり、遠くに江ノ島が見える。（表紙の写真です）この漁港から上がる「釜揚しらす」は絶品です。小動神社は9月開催の鎌倉探訪で見学しました

西東京会世話人会メンバー

代表幹事	：恒成憲一	通　　信：西村　修
副 代 表	：安藤隆夫	幹　　事：
会　　計	：遠間ひで子	出射義幸、小野利明、塩山哲郎
書　　記	：中村英明	谷合幸江　西納政光、橋本隆夫
ＨＰ担当	：岸　伸和	福島龍郎、湯藤　哲、吉本優子
総　　務	：比留間文子	中山達雄、天野静一郎

「断捨離は続くよ いつまでも」

西東京市　岸　伸和

以前、当通信第十四号（令和四年四月二十五日発行）に、部屋の片隅に置かれた段ボールに入っていた一冊のノートの話を寄稿しました。その時は、捨てられずにあれこれ大事に取って置いたほとんどのものは、「人生の置き土産ならぬゴミとなる」という話を書かせていただきましたが、以前から、『私たちにとってはゴミだから整理せよ』と強く主張していた娘二人が、この間、満を持して我が家の〝整理整頓〟に乗り込んで来ました。この時は、玄関の靴箱の整理と、いろいろ詰め込んであったクローゼットが標的でしたが、もう履いていない靴が家内のものと合わせて大量に出てきて、「これからも履くかどうかの判断ではなく、何年も履いていないのなら、即、捨てること！」という、娘たちのアドバイス？により、早速、ゴミとなりました。また、買い替えの時に処分していなかったゴルフクラブ・バッグも、同じ運命となりました。これに味を占めたのか、時は九月某日、まさにこの原稿を書いている日に、第二弾として、キッチンと床下収納庫・食器棚の整理に再来。いまは夫婦二人暮らしとなったので、必要最小限の食器や鍋、小物類などを残して、瞬く間にゴミ袋に詰められ、その数は、四十リットルのゴミ袋が四袋に及びました。

「断捨離」はまだまだ続くようで、次回は、いよいよ本丸（＝我ら夫婦の部屋）に乗り込んで来る予定だとか。そうなれば、完全に「落城」となるわけですが、娘たちの手際よく片付けてくれる姿に言葉も出て来ません。四十リットルの袋を用意して、またお待ちしていますからね。感謝！　感謝！

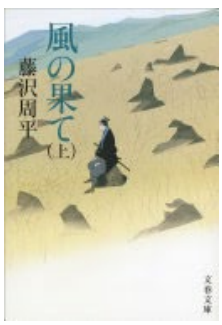
（完）

最近読んだ２編
「雫峠」と「文品　藤沢周平への旅」を紹介する

小野利明

山本周五郎賞作家の砂原浩太朗は「高瀬庄左衛門お留書」「黛家の兄弟」「霜月記」などを神山藩シリーズとして著しているが、**「雫峠」**はこの神山藩をめぐる短編集で、神山を出ると決めた二人の間に芽生えた思いとは？武士の理にあらがった逃避行を描いた表題作の雫峠の他、半夏生、江戸紫、華の面、白い檻、柳しぐれの６編からなる。

私はこの短編集に私の愛読する藤沢周平の「におい」を感じたが、その直後**「文品　藤沢周平への旅」**を手にした。これはノンフィクション作家後藤正治の文芸批評の書である。 後藤は『本書は、作家として藤沢が出発して以降、転機、展開、成熟、深化、練達、枯淡……へと流れ進んできた歳月を、私の好みの作品を解説しつつ辿ってみたものである。・・・私なりの作品探訪を記してみたかった。』と書いて、３部 19 章の構成で多くの作品を取り上げ解説している。更に後藤は『私は長く、藤沢作品の一読者であったが、別段、作品がそのときどきの人生的テーマに解を与えてくれたことはない。教訓的作品として読んだこともない。覚えてきたのは、静謐な物語と文体が体内の深い部分に触れてくる感触である。空洞をふさいでくれるごときものを覚える折もあった。癒されていたのかもしれない。』と書いているが、私も全く同感である。現役時代、通勤電車の友としてほとんどの藤沢作品は読んでおり、作品によっては二度三度読んだものもあるが、この「文品」で取り上げている順番したがってもう一度読んでみようかと思っている。 蛇足　数々の短編も長編も捨てがたいが、私の＜推し＞は「用心棒日月抄」「風の果て」と「三屋清左衛門残日録」か 。



西東京会第 70 回イベント「寄席・落語鑑賞会」

橋本隆夫

西東京会では真夏と真冬は屋外イベントは避けて、屋内イベントを企画していますが、会場に来るまでの暑さ対策までは考えていませんでした。最寄駅から徒歩 10 分とはいえ、猛暑の中汗だくの集合でした。それでも 16 名の参加を得て感謝しています。浅草演芸ホールは都内にいくつかある落語定席の老舗のひとつで、落語協会と落語芸術協会が交互に公演を行なっています。前座から始まり、落語・漫才・コント・曲芸・講談など盛り沢山で飽きませんでした。最後に大喜利で観客からお題を頂戴しての「謎かけ」があり、「トランプ関税」・「甲子園」などのお題が出され、それに大喜利メンバーが即座に回答するのは“さすが！”と感動しました。浅草演芸ホールは入れ替えがなく、夜の部もそのまま鑑賞できるのが特徴で、昼の部が終わる頃には満席に近い入りでした。その後 10 名の参加を得て懇親会が行われ、猛暑の中のビールは最高でした。

「西東京会通信」編集部及び問い合わせ先

公益社団法人　日本産業退職者協会

「西東京会」代表幹事　恒成憲一

事務局　西村 修　090-8331-4448

may40love@jcom.zaq.ne.jp